

登壇

第66号
平成30年12月号

発行
相生市教育委員会
相生市人権教育研究協議会

人権文化をすすめよう！
人権週間 十二月四日～十日

「人権文化」とは

日常生活の中で、お互いの人権を尊重することを、自然に感じたり、考えたり、行動することが「当たり前」になった生活をいいます。

「はなれても、ともだちは

ともだち」

わたしには、あかちゃんるときからずっといっしょにすごしてきたともだちがいます。ぱずるをしたり、てをつないではいたりしました。それがあたりまえだとおもっていたけど、とおくにひっこしてしまふときいて、かなしくてさみしくてないてしまいました。

どれくらいとおいのか、ちずをみたり、おかあさんにきいたり、ずっとかんがえていました。

そのとき、おかあさんに

「はなれても、ともだちはともだち。」

とおしえてもらいました。

いっぱいけんかしてなかなかおりのた、

そんなわたしたちだから、はなれてもだいじょうぶ。そうおもうと、すこしだけ

げんきができました。

ともだちのきもちをかんがえたり、きょうりよくしたりしながら、とも

だちというたからものをたいせつにしたいです。

「だいじょうぶ」

ぼくは、休み時間に友だちといっしょに、草むらで虫とりをしていました。友だちがハチをとろうとしていて、ハチに小

(小学1年生)



ゆびをさされてしまいました。小ゆびからちがでていて、いたそうに見えたので、

「だいじょうぶ？ほけんしつに行く？」

と言いました。ほけんしつの先生が、

「水であらったらいいよ。」

と言ってくれたので、すぐにあらいました。

すると、

「ありがとう。」

と言ってくれて、うれしかったです。

もし、これからこまっっている人がいたら、じぶんからゆう気を出して、声をかけようと思います。そして、みんながあかるい気持ちですこせるようになれたらいいな

と思います。

(小学2年生)



「うれしかった一言」

今日、運動会がありました。特にリレーがきちょうしました。最初の人たちがみんなが、とてもはやそうでした。私が走り終わった時は、二位か三位で不安になりました。青組が負けそうだからです。

でもリレーが終わった時に、同じクラスの友だちが、

「だいじょうぶだよ。まだ三年生やみんなでやるのがあからがなばう。」

と言ってくれました。わたしは心がホッとして、最後までがんばることができました。わたしも友だちがホッとする言葉を言えるようになりましたです。



「一人の力は大きい」

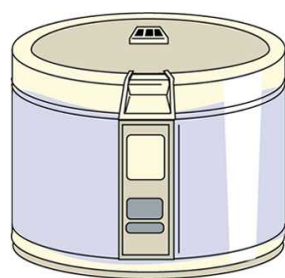
(小学3年生)

今日の家庭科の調理実習で、私は、「やわらかすぎや、かたすぎにならないかな。」

という心配をして作っていました。

最初、Tさんがいなくて三人だったけれど、考え、協力していいかたさのこはんがたけました。すくたいへんだったけれど、Tさんが来ると、お血洗いもすぐに終わり、他の班を手伝えるほどでした。私は、

「だれか一人でもいないと大変で、一人一人がすごく大切なんだな。」



と思いました。一人一人が何かをやってくれていて、それが全部できると完成なんだなと学びました。これからもみんなが気がつかないことでもいっぱいやって、役に立ちたいです。おかげで家庭科の片付けでは一発合格でした。

Tさん、来てくれてありがとう。

「未来がよりよくなるために」

(小学5年生)

終戦記念日に、広島県の小学生が、意見文を読んでいた。それを聞いて、今ぼくたちが、楽しく過ごしているのは、平和の

おかげなんだと改めて思った。だから、これからも、この平和な暮らしをぼくたちが守っていかないといけない。

そのために、ぼくにできること。それは、平和な世界になるように、日々、心がけることだと思う。

大牟田稔さんの「平和のとりでを築く」には、核兵器は不必要だという文が書かれていた。ぼくは、この文章を読んで、絶対に戦争をおこしてはいけないと思った。何があっても争いはいけない。争いは、ひとひととの間におこるものだ。だから、一人一人が心から争いのない平和な世界を願わなければいけない。日々の小さなことから平和を願う気持ち、未来につながるっていいのだと思う。



(小学6年生)

「三六五×十四回分」

ありがとう

道徳の時間に、「三六五×十四回分のありがとう」の学習をしました。重い心臓病で十四さいで亡くなった佐江子さんがお母さんに今までの感謝の思いを手紙で伝えていました。

ぼくは、この学習をして、親のありがとうさや親が子どもを一番に思ってくれていることに気づきました。ぼくのお母さんもぼくのためにいろんなことをしてくれたり、時には、厳しくおこってくれます。ぼくのことを大切にしてくれているからこそやってくれることだと思いました。当たり前になりすぎて気づきにくいことだけど、ぼくも佐江子さんのようにお母さんに感謝を伝えたいです。

(小学6年生)

「みんなが一つに」

今年は練習時間も短かったけれど良い演技ができたと思います。全員リレーでは、ハラハラドキドキしてすごく興奮

しました。みんなが一生懸命走って頑張っていたので、感動しました。騎馬戦ではお互いのチームが作戦を実行していたり、リーダーの人が中心となって指示してくれていたりで、自分たちも熱くなりチームが一つになっているなと感じました。また、練習の時から「手を組んだらだめ」や、「上手くよけてそのすきに帽子を取る」など、気合いが入っていて本番になると楽しかったです。



午後の部では、更に盛り上がりました。今までたくさん練習したムカデも、本番では今まで以上に力が出せました。先輩方がゴールして泣いているのをみて、私まで涙があふれました。みんなでつかみ取った勝利だなと思い、本当に嬉しかったです。私は一段と体育祭が好きになりました。先輩たちはやはりカッコいいなと思いました。

(中学2年生)

「メデイアリテラシー」

人権講演会を聴いて、私は、生活の中で当たり前のようにつかっているSNSに

ついて、正しく利用できているかを振り返ることができました。私が利用しているSNSはラインですが、ツイッターの話を聴いて、SNSはどれも同じぐらい危険があることがわかりました。

掲載内容がどれだけ善意であろうと、他人や自分の個人情報に絶対載せてはいけないことを理解することができました。また、おもしろ半分でも他人の誹謗中傷を書くと、場合によって事件になってしまうと知りました。

ラインでも、面と向かって言えないことを平気で書くことで、その人を傷つけてしまいます。私は、これらのことを念頭において、今後SNSを利用する時には、相手のことや個人情報に気をつけながら、うまく利用したいです。

今回は、とても勉強になりました。

(高校3年生)

「僕はマカダミアナッツ」



学校行事であった「喜多川泰さんの講演会」の中で、マカダミアナッツのたとえ

話がありました。マカダミアナッツは非常に殻が固く道具を使ってもなかなか割ることができない。しかし、正しい栄養を与えるとその固い殻を破って芽が出てくるとい話でした。その時僕は、自分のことを言われているように感じました。固い殻は自分のダメな所。殻を破る栄養は新しい発見をして成長する自分。そして、殻を破ることは新しい自分になるということ。そう考えると現在の自分は栄養を蓄えている時期なんだと思いました。

学校で学級委員長の経験から、栄養を蓄えるべき普段の生活の充実が自分にとっては必要であり、何気ない生活の中でのみを取ったり、トイレのスリッパを揃えたり、困っている人の手助けをするなどの積極的に行動を起こすという当たり前のことを大切にしていきたいと強く思いました。小さな努力を積み重ねて、さらに自分の弱点を克服できるように考え、僕の理想とする立派な大人を目指して、これからも日々精進していきたいと思います。

(高校4年生)

「高校4年生」

僕は4年間この学校で取り組んできたことを自信をもって話すことができる。その中で一番印象に残っていることは、3年生の時に行った修学旅行だ。僕達の修学旅行先は、シンガポール・マレーシアだった。現地での活動で特に印象的だったのは、幼稚園に行き、英語で折紙を教えたことだ。はじめは、折紙をしたことのない現地の幼稚園児に英語で教えるなんて想像できなかった。園児たちは僕の下手な英語でも一生懸命聞いてくれた。また、言葉が足りない部分については、お互いジェスチャーで伝え合った。「コマヤツルを猛練習して行っただが、園児たちには少し難しかったようで、結局紙ヒコキが一番喜んでくれた。最後に折紙で作ったメダルをプレゼントすると、僕が思っていた以上に喜んでくれてとても嬉しかった。そのあと、みんなで写真を撮った。この写真は一生の宝物になった。園児たちと意思疎通がとれて折紙をしたことは大成功だった。

(高校4年生)

「人権ふれ愛コンサート」

日時 12月16日(日) 14時20分開演

会場 扶桑電通なぎさホール

(相生市文化会館 大ホール)

内容 ちひろさんによるトーク&コンサート

入場無料

「みんなちがって、みんないい生き方を
〜金子みすゞの心とともに〜」

平成30年度人権ポスター
特選作品を会場入口に
示します。



家庭対話ウィーク

12月4日(火)〜10日(月)

心と心を受けとめ合う会話、肌と肌で感じるぬくもりのあるふれ合い。安心して、お互いの気持ちを話し合う場所が家庭です。話をゆっくりと聞き合う機会が少なくなってきた

ていると言われます。家庭は

人権文化の最前線とも言われ

ます。あたたかい家族の関係を

みんなで育んでいきたいです
ね。



